謀をなす共黒田如水保肥前寺忠実足利将軍
を氏なの執事高師直と仕へ松山新藤人と呼ぶ人
戦の時諸人の用を勤めす高武蔵守師直没後
後醍醐国金月八幡事ゆ中国兵乱すせ寺基まで
十六代まで只今迄絶る故ゆ遠ても知れを
取なる事をゆゑ夫軍八皆の多ゆ上まで將の
謀りれり事除んて懼を怪を好んでなすは事世
の好。すれ共是の極言なり縱へ室室へ樟石成年
上て畏て中内は相模入道が悪逆只天の意を招
きて上は接机の契る京で御詳討せられ人は何る細
のにべき但し天下草創の功を武異を智恵とのこと
まて彼合二十條州の兵を集めて北条相模國
を攻るとも其時武異を忠しぶる時を勝利をわすに謀を
以て敵で北条相模の両國まて二十條州の兵をば難
なく敗北せしめ只和を握き敵を破る事数くに
易くしてわそ人に過ぎず中ゆ去ぶる合戦の
習ひてしかば一旦の孫兵をそ御迎ゆ正成を人
事い生きてあるを守ぶ人れゆで聖道終を聞くべしと